

平成29年度市民意見交換会「子育ておしゃべりカフェ」 評価・考察

1. 目的

近江八幡市子ども・子育て支援事業計画の中間年度となることから、改めて事業計画の周知を図ると共に、現在及び今後の子育て支援のあり方について、子育て世帯等の意見を聴取することを目的に実施しました。

なお、子ども・子育て支援法第61条第7項に順ずる意見聴取、利用者支援事業の取り組みに関連した位置づけとしています。

2. 開催概要

(1) 日時

第1回目

2月2日(金)	参加者
10:00~11:30	9人
八幡西子どもセンター	(2班)



第2回目

2月7日(水)	参加者
10:00~11:30	4人
あいあいの家	(1班)



(2) 内容

昨年度同様、情報提供、望み、関わりの3本の柱を軸に意見交換を行いました。

- ①子ども・子育て支援事業計画などの情報提供(約10分)

②望みの抽出（約35分）

「あったらいいな」「こうなったらいいな」のグループワーク

③関わりの検討（約35分）

「緊急度・重要度・優先度の高低」「私たちが関われること」のグループワーク

3. 取り組みの結果

(1) 現状に対する評価

グループワークを始める前に、「今、近江八幡市は子育てしやすいまちであるか」という問いに対して、5段階で評価を尋ねました。

結果は、やや悪い評価となる（2点）の評価が最も多く、評価の平均は2.4点となり、昨年度の評価よりも若干、子育てしやすいまちであると感じている人が少ない結果となりました。

参加者の「子育てしやすいまち」度合い（5点満点）

1点（0人）、2点（8人）、3点（5人）、4点（0人）、5点（0人）

（参考）昨年度／平成28年度の結果

1点（2人）、2点（6人）、3点（10人）、4点（1人）、5点（0人）／平均2.5点

(2) グループワークの結果

次の3本柱にて、2日間の合計3班で、グループワークを実施しました。

- ・子育て支援に対する望みの抽出「あったらいいな、こんな子育て支援」
- ・緊急度・重要度・優先度を検討「その支援がどれくらい必要なのか、優先度ベスト3」
- ・関わりの検討「自分たちが関われることを考えてみる」

その結果、親子・当事者からの目線として次の施策を望む一方、今まで仕事等にて身に付けてきたことを生かしたいけど諦めている現状や、地域で世代間交流が生まれると良いなど、多方面から意見交換いただきました。

特に、今後、望まれる子育て支援として抽出されたもの

- ・ニーズに合った遊び場（公園、室内空間）の充実・改善
- ・医療費助成（マル福、予防接種、妊婦健診、不妊治療など）の充実
- ・学齢期の居場所、放課後児童クラブの充実
- ・親子にやさしい歩道や交通の整備
- ・乳幼児健診の改善
- ・子どもがいても働ける求人情報・内職情報の集約

私たちが協力できるかも・・・

- ・高齢者から子どもが集える場所をつくる
- ・リサイクルマーケットなど、親によるイベント企画・実行

(参考) 昨年度／平成28年度の結果

- ・十分に遊びきれぬ公園の設置
- ・あかこんバスを活用した地域交通の充実
- ・医療費助成の充実
- ・公立幼稚園の保育の充実
- ・一時的に預かってもらえる場所の設置

その内、当事者、地域の人材、民間支援が協力して実施できるもの

- ・一緒に遊び、関係性を築ける「ママカフェ」「赤ちゃんカフェ」の実施
- ・ママ友が繋がる掲示板サイトの実施

昨年度と比較すると、遊び場（公園）、医療費助成、地域交通の充実については、2カ年とも抽出された意見であり、子育て支援に対する望みの中では、主要な意見であることが推察できます。

4. 考察と今後の方向性

(1) 継続的な開催

別メンバーによるグループワークにも関わらず、昨年度と同様の意見が抽出されたことから、本市の子育て支援に対する望み（公園等の主要意見）について、再確認することができました。

また、昼食場所や子どもセンターの開館時間に関して「施設はたくさんあるが、使用する人の立場に立って欲しい」といった運用面に対する改善案も意見聴取することができました。

よって、当事者の子育て支援に対する望みを再確認できること、当事者目線での率直な意見聴取ができることから、第2期子ども・子育て支援事業計画の策定に向け議論し始める来年度も、継続して実施してはどうかと考えます。

(2) 身近な場所での開催

昨年度の振り返りにて、気軽なイベントとの共催など場の設定について意見が出ていたことから、今年度は「子育てフェスタ」との合同開催を当初計画していましたが、開催人数に達せず中止となりました。

そこで、再企画を行い、子育て支援拠点においてホットドリンク付きのカフェ方式にて実施しました。「普段行き慣れた場所だと気軽に参加しやすい」との意見があったことから、行き慣れた身近な場所での開催が好ましいと考えられます。

(3) アンケートでは分からない意見

先日行った子育て支援に対するアンケートでは、子育てしやすい環境であるかとの問いに、73.3%の方が肯定的な評価をしていました。しかし、今回の開始時の現状評価（平均2.4点）やグループワークにおいて意見が多数抽出されたことから、直接ヒアリングを行い、もうちょっとの足りない点や追加の望み・改善点を再確認し、『子育てしやすいまち』とは何かを追求して取り組むことは重要であると考えられます。

(4) 子育て支援に対する望み

子ども・子育て支援事業計画策定時のニーズ調査では、充実が必要なサービスとして、下記の3項目が上位となっていました。昨年度に引き続き、今年度の市民意見交換会でも、「公園」、「医療費助成」は、特に望まれる支援としてグループワークにて抽出されているため、改めて高いニーズであると考えられます。

「子育てしやすいまちづくりのために充実が必要なサービス」 上位3項目

- ・医療費の支援制度の充実（63.5%）
- ・子育てしながら働きやすい職場環境の整備（62.2%）
- ・乳幼児の遊び場（公園や子どもセンターなど）の整備（59.1%）

(5) 一緒に取り組む

今回の市民意見交換会では、「つどえる場所・遊び場が欲しい」という望みに対して、「高齢者から小さい子どもまで集える場所づくりについては、手伝えるかも」との意見が出ていました。また、「子育てに関するまとまった情報源」や「おもちゃ・子ども服のリサイクル」という望みに対しても、「親が企画・実行できるイベントは、手伝えるかも」という意見が出ていました。

地域社会全体で『子育てしやすいまち』を目指すためには、このような想いを実現できる参画機会を創出して、当事者のパワーや地域の資源（施設・人材）と一緒に子育て支援に取り組んではどうかと考えます。